

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25年 3月 31日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4670105073号
法人名	有限会社 いろり
事業所名	グループホームいろりの家
所在地	鹿児島県鹿児島市坂之上6丁目20-30 (電話) 099-262-4647
自己評価作成日	平成25年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは、郊外の静かな住宅地に位置しています。近隣には郵便局やスーパー、なじみの鮮魚店や衣料品店があり利用者が散歩や買い物をする事ができ、楽しみを持って過ごしています。職員が担当する委員会として身体拘束委員会、高齢者虐待委員会、感染予防委員会、安全管理委員会、レク委員会がありそれぞれの立場で利用者の支援に反映できるよう努めています。家族や利用者のきずなの継続ができるよう面会時はゆっくり過ごしていただけるような環境を作ったり、遠方にお住まいのご家族には毎月ホームでの様子が映った写真と共に担当職員が書いたお便りを発送しています。

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成25年3月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

鹿児島市南部の住宅街の一角に建てられているグループホームである。近隣にはスーパー・郵便局・病院・交番・大学などがあり、社会資源に恵まれた利便性の良い環境にある。法人は他にもデイサービス・有料老人ホーム・宅老所を併設して地域の高齢者福祉の一端を担っている。地域自治会との良好な関係が築かれており、ホームの避難訓練への参加も得られて運営推進会議でも安全対策の話し合いが行われている。また、依頼を受けて、老人会・民生委員の会で介護教室も行っている。かかりつけ医との連携が図られ、看護師・職員がチームとなり、本人、家族の思いや希望により住み慣れたホームでの看取り介護に取り組んでいる。また、看護師が緊急時の対処法や職員のメンタルケアも行っており、夜勤時の不安軽減に繋がっている。開設して7年が経ち、加齢に伴う利用者の重度化は現実問題であり、職員は業務に追われながらも利用者が楽しく生活できるようにとの思いで日々のケアに邁進している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	全職員が共有できて外部の方に知って頂くよう、玄関や台所に掲示している。	「利用者・家族・職員・地域の方もゆっくりに、楽しく、いっしょに笑顔とともに輝いた日々を送れるように」との事業所独自の理念を作成している。理念は玄関と職員が目につきやすい台所に掲示して、パンフレットにも明記している。日常の業務の中で都度、理念を振り返るようにしており、実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩の時には近隣住民と挨拶を交わし馴染みの関係を築いている。ホームでの行事には近隣からの参加がある。	町内会に加入して回覧板を利用者と共に届けたり、老人クラブや民生委員の会で介護教室を行うこともある。ホームの敬老会・クリスマス会は地域の方々も招待しており、利用者も交流する機会となっている。高校生、大学生の実習の受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域の方々へ介護の相談の案内をしたり、運営推進会議の中で、事業所の様子をお話し、各行事に参加していただき、現状の様子を見て頂くことで認知症への理解に心がけています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではホームの現況報告をしたり地域の情報を得ている。話し合いの中での意見は会議録として残り職員に回覧してサービスに活かしている。	運営推進会議は2カ月に1回、町内会長・老人クラブ会長・民生委員・家族・地域包括支援センター職員などの参加で定期的開催している。できるだけ、家族の参加も得られるようにホームの催し物の際に行うこともある。ホームの状況報告や行事報告、地域からの情報、意見交換などが行われている。運営推進会議が地域とのパイプラインとなっており、毎回、有意義な話し合いがなされ、サービス向上に活かされている。	

鹿児島県 グループホームいろりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>地域包括支援センターの職員には運営推進会議に参加して貰い意見交換ができています。</p>	<p>日頃より連携を図り、協力関係を築くように努めている。介護相談員の受け入れも行っている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束委員会が中心となり定期的に職員への周知を図っている。玄関の施錠はしていない。居室での危険回避にはセンサーの位置やベッドの位置を替えたりしている。</p>	<p>年間計画を作成して定期的な勉強会を行い、職員が正しく理解できるように取り組んでいる。日中は施錠などせずに職員間の連携で安全で自由な生活を送れるように支援している。外出傾向の利用者には職員が着いて行き、散歩などで対処している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止委員会が中心となり事例検討を含む勉強会をして職員の認識を確認している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>最近、成年後見制度を利用して入居した利用者がいて、制度のあり方が少しずつ理解できている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は重要事項説明を十分に行い理解を得ようとしている。改定の時も十分な説明を行い理解を得て同意書をもっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や家族面会の時には職員から話しかけて意見や要望がどうか知るように努めている。	日常の面会時、電話連絡時、敬老会を兼ねた家族会などに家族から意見、要望を聞き出すようにしている。また、ホームの催し物のクリスマス会や夏祭りにも家族の参加があり、職員は家族との関係作りに努めている第三者委員も設置しておりホーム内に掲示している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行われる職員会議の中で意見の交換を行い、職員の要望等を反映するようにしている。	毎朝夕の申し送りと毎月の職員会議で職員の提案や意見交換などを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や他職員と連携を取りながら勤務状況を把握し、その能力や実績年数等に合わせて算定している。また、自主性を主体とし、皆と協調性を持ちながら協力して業務できるよう努めている。		

鹿児島県 グループホームいろりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	職員会議で研修をしたり、研修案内などを提示し、その都度都合のつく職員は参加してもらっている。		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	グループホーム協会の研修への参加や地域での勉強会への参加により、同業者との交流の機会を持ち、情報交換も取れるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や本人、本人の関係者と面談をして情報の収集を行い、本人が安心して過ごせる支援になるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	疑問や質問に対して丁寧にお答えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族との面談をした時、今必要としている支援が何かを把握できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる事、したい事を尊重して過ごしてもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から家族とは何でも相談ができる様な環境作りを心がけている。利用者の現況についても伝えて家族と共有している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望する理容室やスーパーの利用ができるよう支援している。季節に応じた外出（花見やソーメン流し等）を実施している。電話や手紙のやり取りも支援している。	利用者の希望に沿ってなじみの理容室やスーパー・衣料品店などへの買い物支援などを行っている。また、友人知人が訪問しやすいように配慮し、手紙・電話での支援も行って馴染みの人や場と関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活から関係性を把握しており、必要に応じてテーブルの席替えをしたり、レクリエーションで楽しい雰囲気になれるよう心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人・家族からの相談や要望があれば応じている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段のコミュニケーションの中からも希望、要望を把握している。困難な場合、家族からの情報や本人の表情や言動から思いを感じられるよう努めている。	職員は日々の関わりの中で会話・表情・行動・言動から利用者の思いや意向を把握するように努めている。また、毎月、職員会議で利用者個々の状況報告を行って職員全員で検討する機会もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの把握をする。家族や本人との会話の中から情報を得るようにする。	/	/
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や支援経過を記録しており、現状の把握に努めている。	/	/
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や本人の意見や職員の気づき等は、職員会議で話し合い検討してケアプランに活かすよう努めている。	本人・家族の希望を聞き、主治医・職員の意見も取り入れて本人本位の介護計画を作成している。趣味やなじみの関係も計画の中に盛り込み、暮らしを支える計画となっている。変化があれば都度見直しを行い、変化がなくても定期的に見直しを行って現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録を記入している。ケアの実践状況や気づきは申し送りノートを使って情報を共有している。これを介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況を見て、必要なサービスを検討し、柔軟な支援ができるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	銀行、郵便局、スーパー、病院、店舗等の情報を把握して利用者の希望や要望に応じた支援ができるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が利用していた医療機関が継続して利用できるように支援している。また、介助により受診したり、受診が出来ない方は、訪問診療にて支援しております。	本人・家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。ほとんどの主治医とは24時間オンコールで連携が図られており、緊急時における対応も適切に行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>職場の看護師や訪問看護師には気づきがあった時にメモした事柄を忘れずに報告、相談している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>医療連携により、事業所の看護師が医療関係者と日常の様子や報告をし、常に主治医に相談をしながら、密な関係作りに心がけている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時に重度化や終末期にむけた指針は家族に説明して理解を得ている。終末期のあり方については家族や本人の考えを尊重して医師や職員と一緒に支援に取り組んでいる。</p>	<p>重度化や終末期に向けたホームの指針を作成し、入居時に説明している。入居後は利用者の身体状況に応じて主治医と家族による話し合いのもと職員も方向性を共有してホームで出来る最大限の支援に取り組んでいる。これまでに本人・家族の思いや希望による看取り介護にも医師・看護師・職員がチームとなって取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>マニュアルを作り職員が集まる場所に掲示している。</p>		

鹿児島県 グループホームいろりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の立ち会いで夜間を想定した訓練を重視し、避難訓練や初期消火訓練等を行っている。訓練には地域住民の方々にも参加を頂いている。	年2回夜間想定で避難訓練と初期消火訓練を行っている。地域住民の参加も得られ、運営推進会議でも安全対策の話し合いが行なわれている。スプリンクラーは設置済で備蓄（カセットコンロ・水・缶詰など）も確保されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症を患っているが人生の先輩として尊重した言葉かけを心がけている。	人生の先輩として尊厳の気持ちをもって接するように心がけている。日常の業務で気づいたら都度注意し合い、職員会議でも機会を捉えて話をするなど職員の資質の向上に向けて取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	目線を合わせて、ゆっくりした口調で話しかけるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な決まりごとに沿って過ごしているがその日の体調や気分次第ではそれに沿ったペースに合わせて支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	こだわりの店が無かったり外出が困難な利用者は訪問理容でカットをしている。普段の着替えから外出時の服選びは職員も一緒になってしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や下膳ができる利用者にはしてもらっている。皆と一緒に頂きますと言うがごちそうさまはそれぞれである。	個々の力量に応じて出来ることは職員と共に行い、食材の調理方法などを教わることもある。また、誕生日には手作りケーキを作り、十五夜やひな祭りなども献立を工夫して季節感を味わえるようにしている。時には気分を変えて弁当持参の季節の花見やソーメン流し、物産館での外食なども楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理担当者がバランスのとれた食材で調理している。食事量は個人差や病状を見て調整している。状況によりおかゆや刻み食の提供もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には口腔ケアができています。自分の歯がある人、入れ歯の人、ケアの介助を要する人それぞれに応じて支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを把握している。尿意や便意を言えない利用者に対しては定期的にトイレの声かけをしたりパット確認をしている。	排せつチェック表を作成して個々の排せつパターンを把握し、声かけや誘導で日中はトイレでの排せつを支援している。入居後に改善された利用者もいる。また、自立している利用者もあり、維持できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材での調理を心がけている。ひどい便秘症については主治医に相談している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本として一日おきに入浴して貰っている。体調不良があったり、入浴をしたいと希望する利用者がいれば調整して支援している。	入浴は隔日であるが、本人の希望や身体状況・精神状況に応じて臨機応変に対応している。自立している利用者もおり、羞恥心に配慮しながら職員の見守りと声かけで安心して入浴してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や照明に配慮している。それぞれに入床、起床時間が違うのでそれに沿った支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方箋はファイルに入れておりいつでも職員が把握できるよう身近な場所に置いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味の塗り絵を活かし毎月飾るカレンダーの製作にかかわってもらう。また、近所の店で働く孫の顔を見に行きたい利用者は散歩に誘っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の散歩やスーパーへの買い物に付き添っている。月に一度はみんなで外出の機会がある。お花見には町内会長、民生委員、老人会長に参加の案内を出している。	日常的には散歩や近所のスーパーに買い物に出かけている。また、毎月、外出レクとして初詣、季節の花見(梅・桜・バラ・コスモス)外食、地域行事見学なども計画して外出支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>各利用者（家族）から一定額を預かり職員が事務所にて管理している。希望があれば職員と一緒に買い物に行ったり、必要な物を職員が買ってきている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>職員の取り次ぎで家族や友人との電話は自由に行っています。手紙が来たらすぐに本人に渡しています。手紙は職員と一緒に出しに行っている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>カーテンやブラインドで光の調整、湿度や温度に合わせてエアコンや加湿器の設定をこまめに調整、室内の換気等に気を配っている。ホールや玄関には季節感のある置物や花を飾っている。</p>	<p>共用空間の光や音は利用者の希望に沿ってこまめに調節されている。また、キッチンがオープンなため食事の準備やにおい等は生活感があり、五感を刺激してくれる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>日中はホールでテレビを見たり新聞を読んで過ごされている。又、好きな時間に居室で横になったりされている。</p>		

鹿児島県 グループホームいろりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には使いなれたタンスや椅子、冷蔵庫が置いてある。利用者の好きな写真や花や楽器等がありそれぞれ自由に過ごしている。	テレビ・タンス・茶ダンス・冷蔵庫・ラジオ・お気に入りの飾り物などが持ち込まれ個性があり、居心地良く過ごせる居室である。また、各居室に洗面台が設置されており、整容の自立とプライバシーにも配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーになっている。廊下やトイレ、浴室には手すりが設置されている。3カ所のトイレは各居室から近い場所に設置されている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

鹿児島県 グループホームいろりの家

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 グループホームいろりの家

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
		○	3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない